

「鋸山」日本遺産認定推進協議会 第1回会議

1 会議の名称	「鋸山」日本遺産認定推進協議会 第1回会議
2 開催日時	令和元年5月21日(火) 9時00分～10時00分
3 開催場所	富津市消防防災センター 会議室
4 審議等事項	議題 (1)「鋸山」日本遺産認定推進協議会事業計画(案)について (2)「鋸山」日本遺産申請内容(素案)について
5 出席者名	会 長 高橋恭市 副会長 白石治和 委 員 阿部淳一郎、坂本秀則、飯田 浩、平野幸男、 高梨 正、松本 孝、鈴木裕士、手寫光行、 川名 修、手塚 節、藤井元超、山口治一 オブザーバー 星野宏子、羽山篤、錦織淳志(金子慎一代理)、 鈴木晴美(寺元敏光代理)、平島和夫、 山本晴敬 事務局 岡根 茂、笹生忠弘、當眞嗣史、福原規生、 笹生浩樹、伊藤伸久、桐村修司、 佃 沙奈、 金木佑天
6 公開又は非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	
8 傍聴人数	0人(定員10人)
9 所管課	教育部 生涯学習課 文化係 電話 80-1342(2342)
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

発言者	発言内容
<p>(富) 當眞 生涯学習課長</p>	<p>おはようございます。 定刻となりましたので、始めさせていただきます。</p> <p>本日は何かとお忙しい中、足下が悪い中朝早くから御出席をいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>本日の進行を富津市生涯学習課長の當眞が務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。</p> <p>会議に先立ちまして、報道機関の皆様の写真撮影を行います。 これより5分間ほどのお時間をお取りいたしますので、中央で(富津)市長と(鋸南)町長に御起立いただきまして、そこで写真撮影の形をとりたいと思いますのでよろしく願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">～写真撮影～ (高橋市長・白石町長 中央にて握手)</p>
<p>(富) 當眞 生涯学習課長</p>	<p>それでは、引き続き行いたいと思います。</p> <p>本日は千葉テレビさんが取材に来ております。 本日夕方6時、9時半のニュースにて放映予定になっておりますことをお知らせいたします。</p> <p>それでは、今回新たに「鋸山」日本遺産認定推進協議会を立ち上げ、富津市と鋸南町の関連する方々を委員にお願いしたところ、快く御了解いただきまして誠にありがとうございます。ここで委員の自己紹介を行います。はじめに、高梨委員からお願いしたいと思います。</p> <p style="text-align: center;">～委員自己紹介～</p>
<p>(富) 當眞 生涯学習課長</p>	<p>ありがとうございました。 続きまして、オブザーバーの皆様をお願いしたいと思います。 公益財団法人金谷美術館の星野様からよろしく願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">～オブザーバー自己紹介～</p>
<p>(富) 當眞 生涯学習課長</p>	<p>ありがとうございました。 続きまして、事務局職員の自己紹介を行います。</p> <p style="text-align: center;">～事務局自己紹介～</p>

<p>(富) 當眞 生涯学習課長</p>	<p>ここで、会議の公開について説明させていただきます。 本日の会議は、富津市情報公開条例第 23 条第 1 項の規定により公開となります。 このため、後ほど会議録署名人 2 名を決めていただきたいと思います。 また、会議録作成のため録音をさせていただきますので、御了承願います。</p> <p>それでは、ただ今から「鋸山」日本遺産認定推進協議会第 1 回会議を始めさせていただきます。</p> <p>はじめに、「鋸山」日本遺産認定推進協議会会長であります、高橋富津市長より挨拶を申し上げます。</p>
<p>高橋会長</p>	<p>皆様おはようございます。 ただ今、御紹介にあずかりました「鋸山」日本遺産認定推進協議会会長を務めさせていただきます、富津市長の高橋でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、委員の皆様、そして、オブザーバーの皆様におかれましては、足下の悪い中、早朝より御出席をいただきまして誠にありがとうございます。特に、鋸南からお越しの委員の皆様におかれましては、大変朝早い時間から御出発をいただき、おいでいただいたと思っております。重ねて感謝を申し上げたいと思います。</p> <p>このたび、富津市と鋸南町に跨がります「鋸山」の魅力を国内外に発信するべく、日本遺産認定に向けて、この推進協議会を立ち上げさせていただき運びとなりました。</p> <p>鋸山といいますと、ここにいる皆様は、幼い頃から毎日見上げればそこにある、というような山ではないかと思っておりますが、御案内のとおり、鋸南町側の日本寺、文学、絵画等、信仰と芸術に彩られた山として、そして、私ども富津市側におきましては、日本の近代化を支えた房州石の生産地としての石切場、樋道、車力道等の遺構が挙げられます。</p> <p>この房州石が使われている金谷は、石の町を象徴する石垣、石塀のある町並みを形成しております。そして、三浦半島や東京湾、また、東京湾越しの富士山など、山頂付近から見渡せる眺望は様々な感動を与えてくれ、それらを包括したものを鋸山の魅力である。そのように感じているところであります。</p> <p>また、昨年、日経新聞の「ディープジャパン」におきまして、アメリカ人、オーストラリア人の方が、ゴールドルーツと呼ばれる、日本の東京、名古屋、大阪、京都、そして富士山周辺を訪れた経験のある方が「次どこを訪れたいと思っておりますか。」という調査で、日本各地多数ある中で、</p>

鋸山が全国第2位に選ばれたということは、皆様すでに御案内のとおりであります。

そのような素晴らしい評価をいただいている鋸山ではありますが、是非、これを日本遺産に認定していただくことによってさらに広く、日本国内はもとより、外国にも素晴らしさを広げて、地域の発展にも活かして参りたい。そのような思いで、本日、来年度の日本遺産認定を目指し、この委員会をスタートさせていただきます。

本日の新聞紙上では、今年新たに16件が追加され、計83件の日本遺産が認定となったということでもあります。おそらく100件を目標に国が進めているということでもありますので、残すところ約20件弱、17件ということでもありますので、なんとか皆様のお力添えでこの17件に滑り込んでいきたいと考えております。

本日はマスコミの皆様にも多数お越しいただいております。

皆様のお力もお借りして、鋸南町さん、富津市の市民の皆さんにも是非、その機運を盛り上げていただいて、この地域全体でこの大事業を達成していきたいと考えております。

皆様方におかれましては、大変御多忙の中ではありますが、是非、達成のその日までお力添え賜りますようお願い申し上げまして、簡単ですが、会議冒頭の挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

(富) 眞  
生涯学習課長

続きまして、副会長であります白石鋸南町長より、御挨拶申し上げます。

白石副会長

鋸南町長の白石でございます。

ただ今、会長である高橋富津市長がおっしゃられたとおりであります。我々としては、まず第一に、日本遺産に認定されることによって住民の皆さんにいかにも良いことがあるのか、ということがベースでありまして、地元の住民の方々の意を汲んで日本遺産認定を目指したいという思いでありますので、これからもよろしくお願いいたしますと思います。以上です。

(富) 眞  
生涯学習課長

ありがとうございました。

ここで、会議の途中ではございますが、岡根教育長におかれましては、次の公務がございますので、これにて退席させていただきます。

岡根教育長

失礼いたします。

皆様、今後ともよろしくお願いいたします。

～岡根教育長 退席～

(富) 富眞  
生涯学習課長

次第にのっとりまして進めさせていただきます。

続きまして、次第5「趣旨説明」につきまして、私より申し上げます。

○趣旨説明

日本遺産認定推進協議会発足に伴い、今回初めての会議でありますことから、まず日本遺産とは何か、また、日本遺産認定にはどのような要件が必要となるのかを含めて説明させていただきます。

日本遺産とは、我が国の地域に点在する有形・無形の文化財をパッケージ化して、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本を代表する文化・伝統を語るストーリーとして文化庁が認定する制度です。文化庁は2020年までに日本遺産を100件認定することとしており、2018年度時点で67件認定されております。2019年度は昨日(5月20日)発表され、16件が決定いたしました。残り17件が最終年度の2020年度に決定する流れとなっております。

認定に向けて活用を図ることはもちろんのこと、情報発信や人材育成、伝承、環境整備などの取り組みを効果的に進めていくことが必要となります。

日本遺産事業の方向性は3つに集約することができます。

一つ目としては、地域に点在する文化財の把握とストーリーによるパッケージ化。

二つ目としては、地域全体としての一体的な整備・活用。

三つ目としては、国内外への積極的かつ戦略的・効果的な発信。

以上の3つです。

そのために、本協議会は、富津市と鋸南町が協力して進める必要があることから、規約にもありますとおり、富津市長を会長に、鋸南町長を副会長といたしました。

委員といたしましては、富津市・鋸南町の文化財担当・観光担当・企画担当課と文化財審議会、観光協会とし、また、地権者を代表して、日本寺と金谷ストーンコミュニティ、さらに、地元代表として、金谷地区区長会代表と元名区長で構成されております。

また、委員のほかにオブザーバーとして、日本遺産認定に向けて協力をお願いしたい団体として、公益財団法人金谷美術館様、富洋観光開発株式会社様、鋸山ロープウェー株式会社様、東京湾フェリー株式会社様、鋸南町ガイドボランティア様、道の駅保田小学校様に依頼したところ了解いただき、御参加いただくこととなりました。

なお、規約中にはアドバイザーについても規定しています。

今回、アドバイザーの方々には参加いただいておりますが、鋸山の石切場の調査を長年にわたり御協力いただいている石川県金沢城調査研究所の皆様、山梨県埋蔵文化財センターの職員の皆様。さらには、金谷で地域

活性化の調査を実施している千葉大学大学院建築学科にお願いする予定です。アドバイザーの皆様からは、会議とは別に適宜、御意見や調査協力をお願いする形となります。

以上で、趣旨説明を終わります。  
何か御質問等があればお願いしたいと思います。

御質問等はないということによろしいでしょうか。  
それでは進めさせていただきます。

会議の議長につきましては、「鋸山」日本遺産認定推進協議会規約第8条第1項の規定により、「会長が招集し、会議の議長になる。」とありますので、高橋会長に議長をお願いいたしたいと思います。よろしくお願ひします。

高橋議長

それではしばらくの間、議長を務めさせていただきます。

議題に入る前に、先ほど事務局からお話がありました、会議録署名人を決定したいと思います。

委員の皆様にお諮りいたします。どのような方法で決定したらよろしいでしょうか。

(意見なし)

高橋議長

私から指名ということによろしいでしょうか。

委員一同

(異議なしの声)

高橋議長

御異議もないようですので、高梨委員、川名委員をお願いいたします。

それでは、議題に入ります。

議題(1)「鋸山」日本遺産認定推進協議会事業計画(案)について、事務局より説明願ひます。

(富)桐村生涯  
学習課副主幹

それでは、私から「鋸山」日本遺産認定推進協議会事業計画(案)について御説明いたします。

本日、正式に推進協議会が発足しましたので、鋸南町と力を合わせ、日本遺産認定に向けて取り組んで参りたいと思います。

協議会といたしましては、今年度第2回の会議と鋸山を日本遺産に認定していただくよう、県文化財課を通じ、文化庁に書類を提出いたします。

まず、令和元年5月、本日ですが、「鋸山」日本遺産認定推進協議会が発足いたしました。そして、第1回会議が開催されております。

このあと令和元年7月、素案を文化庁へ提出いたします。これにつきましては、文化庁との正式な事前協議になります。鋸山が認定されてから、地域をどう活性化させていくのか、どのように広くアピールしていくのか、ということを活活性化計画等を含んだ書類の審査が、まず簡単にここで行われます。文化庁から、「この部分をもう少し強くしていったらよいのではないか。」などのアドバイスをここでいただけるようでございます。

11月中旬を第2回の会議として予定しております。先ほどの文化庁からのアドバイスに従って、数回事務局のほうで素案を練り直します。年明け早々に本申請しますが、この内容等についてこの会議で御確認いただきます。

また、本日は富津市で行っておりますが、次回の会議につきましては鋸南町での開催を予定しております。皆様には鋸南町にお集まりいただくこととなります。

12月上旬から、いよいよ令和2年度の公募が始まります。令和2年1月上旬頃までの募集期間ということで、それに向けて年明け1月に日本遺産認定書類を提出いたします。鋸南町・富津市連名での書類を作成し、県教育庁文化財課を通じまして、文化庁へ進達していただきます。

2月以降から4月にかけて、日本遺産認定委員会が数回開催されます。ここで選定委員会が開かれるのですが、5月初旬に令和2年度の日本遺産が決定いたします。

5月中頃に日本遺産認定式が開催されますとともに、その日の夕方にテレビ、新聞、インターネット等を通じて報道されることとなります。先ほどもお話がありましたが、昨日、令和元年度の日本遺産認定が発表されました。72件の申請に対して認定が16件。倍率4.5倍の狭き門となりましたが、平成30年度までに67件が認定されておりましたので、今回の16件を合わせまして計83件が認定されたということでございます。来年度残り17件の狭き門ですが、なんとか頑張ってお認認定していただくようにしていきたいと思っております。

以上、事業計画について御説明いたしました。この推進協議会のほかに、事務局サイドで行う運営部会と市町庁内協議を必要に応じて適宜開催して参ります。

運営部会につきましては、市町関係三課による調整会議ということで、鋸南町さんで申し上げますと、教育課・地域振興課・総務企画課。富津市におきましては、商工観光課・企画課・生涯学習課合同で調整会議を行います。

また、市町庁内会議については、市町ごとの関係機関による会議を適宜

	<p>行って参ります。 以上で御説明を終わります。</p> <p>高橋議長</p> <p>ありがとうございました。 説明が終わりました。何か御意見、御質問がありましたらお願いいたします。</p> <p>よろしいでしょうか。 御質問、御意見等ないようですので、次の議題に進みたいと思います。</p> <p>議題2 「「鋸山」日本遺産申請内容(素案)について」事務局の説明をお願いいたします。</p>
<p>(富)伊藤生涯 学習課長補佐</p>	<p>それでは、クリップ留めをしたカラー印刷の資料で御説明いたします。 まず、全体を軽く見ていただきたいと思います。</p> <p>様式1-1と書かれたものですが、この「日本遺産」というのは、文化財を核としたストーリーを認定してもらう、という制度でございます。それを「ストーリーの概要」で200字程度でまとめています。</p> <p>次をお開きください。それを構成する文化財の位置をここに落として参ります。現在、富津市の地形図の縮小版と鋸南町さんの輪郭を描いておりますが、提出書類を作成するにあたりましては、もう少し道路等が見やすい地図に構成文化財の番号を記入して参ります。</p> <p>次のページですが、四角で囲まれた部分付近の拡大図がこのようなっております。</p> <p>これは、現況の富津市側における金谷ストーンコミュニティーの石切場の調査の図面と、真ん中左側でございます「鋸山と羅漢石像群」と書かれてありますこのエリアが、実は現在、県指定の名勝となっております。鋸南町側の主に日本寺境内の一部がその指定範囲であります。ゆくゆくは、日本寺さん側のエリアを左側、南側にもう少し仁王門の付近に広げまして、そして、右側の富津市側の石切場の範囲を括りまして、まずは名勝という分野で県指定を国指定に持っていきたい、というのがもうひとつの目標としてございます。</p> <p>これは現況を表す図ですので申請には使いませんが、皆様の御理解のために付けさせていただきました。</p> <p>次を御覧ください。</p> <p>様式2です。A4で2枚になりますが、この2枚で構成文化財を網羅して鋸山のストーリーを語るということになっていきます。これが認定される骨子となっております。ここでどのようなストーリー付けをしていくかが、まずひとつの肝になります。</p> <p>2枚めくっていただきまして、「ストーリーの構成文化財」。地図のところで申し上げましたが、そこでストーリーに盛り込まれる構成文化財を網</p>



羅して参ります。その番号に対応するように次へめくっていただきますと、4枚ほどの写真図版に、今、その構成文化財の候補としてこのようなものを挙げております。ここに番号を落とし、今の表と地図を対応させるような構成にして参ります。

4枚の写真図版をめくっていただきまして、様式4です。

「日本遺産を通じた地域活性化計画」とあります。今の趣旨説明で申し上げましたとおり、もうひとつストーリーを、日本遺産に認定されたあとのその先の活性化計画が重要視されております。どのような将来像、ビジョンを持って地域活性化のための取り組みをしていくか、ということをごここに表現していきます。

また、大事なのが、日本遺産認定後には三か年の補助金がいただける期間がございます。その補助事業をするということと、その補助金が途切れた後の更に三か年の計画を網羅しておく必要があります。すなわち、実質的、継続的な取り組みが計画されているかが重要視されます。そして、その実施体制は本当に実施できるものなのか、ということで、今日、お集まりいただいた委員の方々やオブザーバーの皆様方のお力添えがなければ、この書類自体もできない、ということになります。よろしく願いいたします。

一枚めくっていただきます。様式4の別紙がこれから続きます。

今の概要の中の詳細をここに記すことになっています。

まず、別紙①には設定する目標。例えば、「フェリーを利用した観光客数がどれぐらいになればよいか。」などの目標です。それから、ロープウェイの利用率がどうであるか、それについてのカウントになるかと思えます。それから、JRの乗降客数等ですね。そのあたりを指標として参りたいと思えます。

一枚めくっていただきまして、別紙②です。三か年の補助金をいただいてやっていく事業の内容をここに網羅していくことになります。平均の補助金額としましては、一年目が4千万円程度、二年目が2千万円程度、三年目が1千万円程度といったプランになっております。まずは、その三か年の「日本遺産魅力発信事業」の計画をここに具体的に書いていく必要がございます。

一枚めくっていただきます。最後のページですが、別紙③。これが三か年の補助期間、途中でもよいのですが、補助金をもらわずにその他事業として自発的にしていく事業、どのように自立的、継続的な事業を計画して、それを地域の活性化にも結びつけていくか、ということが重視されます。

そして、目標年度といたしましては2020年で100か所ということで、順調に昨日の認定を経てあと17か所というところまで迫って参りました。この認定の協議会の中で委員の方々が問題視されているのが、初期の頃に認定された自治体、ストーリーにおいて、実際に地域を訪れたところ、「正しい利用がされていない。」「地域の活性化に結びついていないので

	<p>はないか。」といった厳しい言い方をされるストーリーも何件かあるという ことで、「今後は、活性化されていないところについては取り消しも辞 さない。」といった強硬な御意見もあるようです。</p> <p>翻ってみますと、申請の段階でそのような地域活性化策が盛り込まれて いないときには、かなり認定される確率が低くなってしまおうと思われま す。ですので、ストーリーもさることながら、この計画が申請において大 事なポジションになっております。</p> <p>ここまでよろしいでしょうか。 御質問がありましたらお願いいたします。</p> <p>高橋議長                    まだ説明は続きますか。</p> <p>(富)伊藤生涯 学習課長補佐            はい。 ただ、ここから皆様にストーリーについて御意見を伺いたいと思いま す。</p> <p>高橋議長                    それでは、説明途中ではありますが、これまでの説明に対しまして、何 か御質問、御意見等ございましたら、御発言をお願いいたします。</p> <p>鈴木委員                    今朝の新聞を読ませていただいて、やはりストーリーという中で一か所 というのは日本の歴史の中でどのような脈絡で受け継がれているのか、と いうことが非常に重視されているような気がしました。</p> <p>                                 鋸山の石というのは、切り出されて、例えば横浜の開港に使われていた り、あるいは、皇居の造営に使われていたといった歴史があります。その ようなところとの連携ということになった場合、そのようなことをただ文 脈として書くだけか、あるいは横浜市とそのような連携が必要になってく るのか、というのはどうなのでしょう。</p> <p>(富)伊藤生涯 学習課長補佐            まず、申請にあたって、ストーリー立てというのはこれから御説明させ ていただくわけですが、もちろん、その房州石を扱う生産地としての鋸山 というのがあります。</p> <p>                                 それから、首都圏を中心とした消費地との連携もあろうかと思いま すが、ストーリー立てとしましては今までの傾向として、あまり広げすぎ るとコアがなくなり分散されてしまう。それによって、石だけのストー リーになってしまうことが危惧されますので、できれば鋸山を中心とし たコアなエリアで地域の強い想いととも申請したい、というのが今回の 主眼となっております。</p> <p>                                 この先認定されましたら、もちろん活用という範囲でそれぞれ消費 地と連絡を取り合い盛り上げていく、という方策は必要かと思われま す。</p>
--	--

鈴木委員	ありがとうございます。
高橋議長	他にいかがでしょうか。  特にないようですので、伊藤課長補佐、引き続き説明をお願いします。
(富)伊藤生涯学習課長補佐	<p>それでは、一枚目に戻りまして、ストーリーについて見ていただきたいと思います。「日本遺産認定に向けて」というタイトルでまとめております。それがストーリーをつくる際の留意点になっております。</p> <p>○資料『鋸山日本遺産に向けて』に沿って説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本遺産として認定するストーリーは次の3点を踏まえた内容である。       <ol style="list-style-type: none"> <li>①歴史的経緯や地域の風習に根ざし、世代を超えて受け継がれている伝承、風習などを踏まえたものであること。</li> <li>②ストーリーの中核には、地域の魅力として発信する明確なテーマを設定の上、建造物や遺跡・名勝地、祭りなど、地域に根ざした継承・保存がなされている文化財にまつわるものを据えること。</li> <li>③単に地域の歴史や文化財の価値を解説するだけのものになっていないこと。</li> </ol> </li> </ul> <p>とあります。</p> <p>それから、その下にどの部分が審査基準になっているのか、という点が書いておりますので御覧ください。</p> <p>様式1-1の「ストーリーの概要」を見ていただいでよろしいでしょうか。まず、この鋸山は上総国と安房国との国境になっておりました。この山自体が国境です。</p> <p>ストーリーの概要を集約したものをまとめてありますので読み上げます。</p> <p>「安房と上総を引き分けにけり」とうたわれた房総を代表する山は、東西に伸びるその急峻な嶺の姿から、鋸山と呼ばれ、東京湾に入る船の目印とされてきた。一帯に分布する房州石は、古墳時代から石材として活用され、幕末期から本格化した採石産業は、日本に近代化を基礎から支えた。勅願所建立の命を受けた僧が惹き寄せられた東国の霊山でもある鋸山は、かつての国境を越え、聖俗の境を超え、人や事物を惹きつけ続ける。」</p> <p>というストーリー展開を鋸山自体が、関東屈指のパワースポットをその成り立ちとして持っている。その中心に向けて、褶曲のパワーを集約することによって山が盛り上がり、中心に固い石の部分が形成され、頂上付近が一番固くて良い石になっている。というストーリーをその中に組み込みました。</p>

ストーリーの構成といたしましては、そのような元々パワーを持つ山に行基が惹き寄せられ、日本寺を造られました。その日本寺の御利益を求めて源頼朝をはじめとした武将が惹き寄せられて寄進した。それから、石仏師も惹きつけられて、そこに千五百羅漢や様々な宗教施設を築いていった。

次に、自然の内容。

鋸山を取り巻く自然環境で、野山で花卉の栽培や農業、漁業が栄えた。それから、鋸山を構成する房州石と呼ばれる石材が古墳時代から石室に利用され、江戸時代後期以降に採石産業が隆盛を迎え、まさしく日本の近代化を基礎から支えた。ということになっています。

採石産業自体は、昭和60年を最後に終息しましたが、金谷だけでなく、鋸南町さん側にも町並みがございます、石垣や石塀、石蔵、石製の橋などが見られます。

それから、産業が衰退してしまった後にも巨大な採石遺構を利用して、その神聖さが宗教施設の中に取り入れられ、「地獄のぞき」や「百尺観音」がつくられました。

実は、このあたりが両市町の市境になっております。正面のボードに、外国人観光客向けに取り上げられた地獄のぞきの写真がございますが、これが形成されたのも両市町の境がそこにあったので取り残された姿でございます。

そのような境によって守られ、境界を越え、聖俗を超えて今に至り、このスピリチュアルな魅力が益々増大している。というストーリー立てとなっております。

これを年度の終わり前後に、我々両市町の担当で文化庁の御担当を訪問いたしました。そのためにこの素案をつくったわけなのですが、そのときの御感想といたしましては、「まあ、平均点かなあ。」ということです。

「全国から集まってくるその真ん中ぐらいの印象です。ここから認定にいくためには、もっと魅力を読み取れるような形で構成しないと抜きん出るとは難しいのではないかと。これから考えていけば、どうにかなるのではないのでしょうか。」

という御感想です。

具体的なことはおっしゃっていただかなかったのですが、まず、写真が小さいのです。なぜ小さいかというと、文章が長いのです。もちろんこれは100パーセントではありませんが、最大限に語ることを入れたために、それでも削ってこのぐらいです。

ですが、これをさらに削って、もう少しわかりやすくキャッチーな言葉にしていく必要がある。審査員の方々には昨日の報道をまた御覧いただけるとよいのですが、審査員の10名の方々というのは、文化財の専門の方もいらっしゃるが、外国人で日本の文化に精通されている方や舞台の演出を手掛けられている方、いろいろな御職業の方々がいっぱいいます。言ってみれば一般の方々です。その一般の方々が「これいいね。」「行ってみたいね。」と思うような、そのような展開が一番望ましいということでもあります。

それで、このストーリーそのものもそうですが、ストーリーの概要・タイトルを、いかに魅力を発信できて、一般的にキャッチーなものにできるか、ということが一番肝になるといいますか。

今のところのタイトル案といたしまして、

#### A案

「鋸山が生んだ自然と文化

～名勝地鋸山 大仏・羅漢石像群と石切場跡の産業遺産～」

これはもう本当にそのままです。今の県指定の内容をそのまま拡大したタイトルです。

#### B案

「境界を超える天空の絶壁

～ニッポンを支えたスピリチュアル・マウンテン鋸山～」

これは、どちらかという今この巨大な姿をクローズアップして、それをキャッチーな形で広げたいと思ったのですが、これだけを見ても内容はよくわからない。

これを、少し合体した姿を目指すべきかな、というところで示してございます。

以上で内容の説明を終わります。

高橋議長

ありがとうございます。

それでは、何か御質問・御意見等ございましたら、お願いいたします。

高梨委員

事務局におかれましては、ここまでまとめていただきまして、本当に感謝しています。よくできていて素晴らしいと思います。

先ほども少し出てきておりましたが、日本国内でもかなり大規模な部類の石切場跡。これは稀少であるわけですが、もう少し遡りますと、古い時代には転石を利用したと思われる古墳に、かなりその石が使われている事実もあります。そういう意味では、なんと申しましょうか。この富津市におきましては、「古代のロマン」、そのようなものと関わりがあるのかなと、そう思います。もちろん、鋸山本体に関しては言うまでもありませんが。

そして、この素晴らしい鋸山ですが、原案を拝見いたしまして、「天空」という言葉、今、少し話題になっている表現かもしれませんが、これは非常にインパクトがあるのではないかと思います。この言葉を上手に使っていただければいいのかなと。

	<p>そこで少し思い出したのですが、地元の長老の方にお聞きしますと、かつて昭和 30 年代頃には鋸山に登山するお客さんが非常に多かったと、金谷の駅から行列を成していったと、それぐらい多くの方が訪れていた地であった、という話を伺ったことがあります。</p> <p>それから、10 年ぐらい前でしょうか。様式 2 でも紹介されていますが、石切場跡を利用して、コンサートを何回か、3、4 回だったでしょうか、実施しております。そのときにも多くの方々が訪れて音楽を楽しんでいたわけですが、そこに参加されている人たちに色々聞いてみますと、表現はオーバーかもしれませんが、「癒やし空間」と言うのでしょうか。「ほっとする。」「いいところだなあ。」というお話を伺ったのを思い出しました。</p> <p>そのような場でもあると、少し精神的な要素もあるところなのかなと、そのようなことを思い出しております。</p> <p>意見になるかはわかりませんが、よろしく願いいたします。</p>
高橋議長	<p>貴重な御意見をありがとうございました。 他にいかがでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。 他に御意見・御質問ないようですので、以上をもちまして、本日、予定をいたしました議題を全て終了させていただきます。</p> <p>委員の皆様方におかれましては、冒頭の挨拶でも申し上げましたが、世界的に見ましても、大変魅力の溢れる鋸山でありますので、日本遺産認定に向けて富津市・鋸南町で力を合わせて参りたいと思っておりますので、御協力のほどよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、これもちまして、議長の職を降ろさせていただきます。 ありがとうございました。</p>
(富) 眞 生涯学習課長	<p>高橋会長、ありがとうございました。</p> <p>次第 7 「その他」ですが、委員の皆様から何かございますでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。 それでは、事務局からお願いします。</p>
(富) 桐村生涯	<p>次回の会議の開催についてですが、先ほどの事業計画案の中で申し上げ</p>

<p>学習課副主幹</p> <p>(富) 眞 生涯学習課長</p>	<p>ましたが、11月中旬頃を予定しております。開催が決まりましたら、委員の皆様には通知を送らせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、以上をもちまして、「鋸山」日本遺産認定推進協議会第1回会議を終了いたします。</p> <p>お疲れ様でした。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>～閉会～</p>
---------------------------------------	--